詩集日本漢詩

第二卷

富士川英郎・松下　忠・佐野正巳編

江苏工业学院图书馆
藏书章

汲古書院刊

詩集　日本漢詩　第二巻（第Ⅰ期第四回配本）
昭和六十年九月　発行

定価八、五〇〇円

編者　富士川英郎
　　松下　忠
　　佐野正巳
解題　松下　忠
発行者　坂本健彦
印刷　モリモト印刷株式会社

発行　汲古書院
102　東京都千代田区飯田橋二―五―四
電話（二六五）九七六四　振替東京五―一五八〇三五

©一九八五

解　題

松　下　忠

古学先生詩集

こがくせんせいししゅう　伊藤仁斎の詩集。古学先生は仁斎の私諡。古学先生文集六巻三冊と古学先生詩集二巻一冊が合冊一部となる。詩集は享保元年（西紀一七一六）成立、翌二年の新刊。詩の総数は四〇八首、編輯者は長子東涯。

一　内容の構成と特色

巻之一は五言律詩五五首。五言古風四首。七言律詩八三首。

巻之二は五言絶句六首。七言絶句二六〇首。

五言詩の総計六五首に対して七言詩の総数は三四三首で五倍強に達している。五言詩の総計六五首の内に五言律詩は五五首で大部分が律詩であり、七言詩も総数の四分の一が律詩であるということは、仁斎は律詩を好み律詩に長じていたと云うことが出来よう。

二　編纂の目的意図

編纂者東涯は自ら跋文を撰して、編纂の目的意図を次のように明らかにしている。

仁斎自身は自作の詩文を収拾することはしないで散逸に任せた。東涯は父仁斎が四十三歳の時の子であるから、幼少の頃は父の詩文が散逸に任されていることを知る由もなかった。長じて後に、亡父の遺文を無窮に伝えようと意図し、門生・故旧を訪ねて捜求に努めたという（書先君子全集後）。

三　著者　伊藤仁斎

古学先生は伊藤仁斎の私諡、名は維楨、字は源佐、棠隠と号し、寛永四年（一六二七）生、宝永二年（一七〇五）歿、七十九歳。宋学を棄てて古学を唱え、古学派の祖と仰がれている。童子問三巻は、元禄六年（一六九三）六十七歳の時に成る。中には仁斎の詩文論が散見している。

仁斎は詩と文とを区別し「詩は之を作るは固より可、作らざるも亦害無し。文の若きは必ず作らざるべからず。」と言って詩よりも文を重視している。文の中では尺牘の類は文と為すに足らずとし、宋の葉適の語を引用して、「世教に関係するか否か」という事が「作文之律」であると主張した。詩よりも文を重視したのは、「詩は以て志を言ふもの、文は以て道を明らかにするもの。」と考えていたからである。（拙著「江戸時代の詩風詩論」中編第一章第十一節　伊藤仁斎より抜萃。）

仁斎は父の喪と母の喪が続いたので、喪に服することが四年に及んだこと、下痢に困しんで久しく盃酒を廃したことが、詩集巻之一の「東山即事」の自注に記されているし、「瘧」即ち熱病を患って二十日も病臥し、別人のようになってしまったという詩「患レ瘧」も同じく巻之一にある。

仁斎は有名人であるから伝記は省略し、各位の座右にある伝記資料の二、三を列挙する。

江村北海（名綬）　日本詩史　巻之三　伊藤仁斎

原　念斎（名善胤）　先哲叢談　巻之四　伊藤維楨

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

五弓雪窓（名久文）　事実文編　二十四　　仁斎伊藤先生伝　安中侯　板倉勝明
先府君古学先生行状　伊藤長胤

井上哲次郎　　日本古学派之哲学　第二編第一章　伊藤仁斎

吉川幸次郎　　仁斎・徂徠・宣長　仁斎東涯学案の内　一　仁斎の伝記　二　仁斎の思想と学説

四　書誌事項

古学先生詩集は通常「古学先生詩文集」として文集と一括されている場合が多いが、ここでは詩集のみについて略述する。

使用底本　慶応義塾大学斯道文庫本(A)安井文庫本　二巻大三冊　享保二年刊　紺表紙で、題簽は四周双辺「古学先生詩集　一」(第一冊)。奥附は四周単辺で、「享保丁酉新刊　京兆　玉樹堂発行」とあり、右上部に「古義堂蔵板」の大型方印が捺され、下部にこの印無きものは偽刻であると刻されている。48%縮小。

諸本

一、慶応義塾大学斯道文庫本(B)　二巻一冊　(A)とほぼ同一本、やや後刷りか。

二、国会図書館本　二巻三冊　使用底本に同じ。

三、国会図書館鶚軒文庫本(A)　一〇三〇甲　二巻一冊　右に同じ。題簽破損。

四、国会図書館鶚軒文庫本(B)　一〇三〇乙　二巻一冊　表紙が色あせ、書き題簽であるほかは右に同じ。

五、国会図書館鶚軒文庫本(C)　一〇二八　二巻一冊　黒表紙で、本の大きさが縦二センチ程短かい。目録カードに記載されているように享保二年版の後刷りと思われる。

六、内閣文庫本　二巻一冊　奥附は「京兆　文泉堂発行」となっており他本と異なる。刷りは良。

七、静嘉堂文庫本　二巻一冊　黒表紙で、題簽は「一」の次に「二」を書き加えている。本の大きさは国会図書館鶚軒文庫本(C)より更に小さい。奥附は「六角通冨小路角／平安書肆　藪田新兵衛」となっており、諸本と比較して刷りもよくなく、後印本と推定される。

以上、享保二年の奥附のある版本に版元が三種あり、同じ玉樹堂版でも表紙に二種あり、黒表紙本は後印本である。版元の玉樹堂・文泉堂のどちらが先か、あるいは同時かは未調査である。

国書総目録によれば、右の享保二年版のほかに、安永三年版・刊年不明版（筑波大学図書館本　二巻二冊等）がある。

紹述先生文集

しょうじゅつせんせいぶんしゅう　二〇巻一〇冊。紹述先生は伊藤東涯の私諡。紹述先生文集二〇巻一〇冊と紹述先生詩集一〇巻五冊より成り、文集巻之二十一が詩集巻之一、文集巻之三十が詩集巻之十となっている。紹述先生詩集巻之一の第一頁に例を取ると、上に紹述先生文集巻之二十一とあり、下に詩集巻之一とある。以下同一形式で一貫している。文章を四〇種類に分類し、各類とも文例を提示している。文章の総数は七七〇篇に上る。寛延二年（西紀一七四九）に成り、第五冊文集巻之十までは宝暦八年（一七五八）春三月刊。第六冊文集巻之十一より巻之二十までは宝暦九年（一七五九）秋八月刊。紹述先生詩集十巻五冊は、宝暦十一年（一七六一）之秋七月、長子東所（名善韶）によって刊行された。著者は伊藤東涯（名長胤）、編者は弟蘭嵎（名長堅）、校正者は東涯の長子東所である。

紹述先生詩集

しょうじゅつせんせいししゅう　一〇巻五冊。紹述先生文集二〇巻一〇冊と合冊で、紹述先生文集巻之二十一から巻之三十までが詩集である。ただし詩集の部の題簽は「紹述先生詩集」となっている。著者も校正者も文集と同じである。詩集の部の目録は「文集目録」の次に続いているから、目録の検索は文集の第一冊に依らなければならない。詩篇の総数は、目録によると一六七一首に上り、日本人としては多作の部に属する。

テキストには空文欠字がままある。空文の例は

○自隠老禅今茲齢登八秩云々（巻之二十三）

○晩夏石門即事（巻之二十四）

○十菊歌（巻之二十七）

欠字の例は

○木津舟中　○遊高台禅寺　○独釣寒江雪（以上巻之二十二）

○冬日応巌橋生招云々（巻之二十三）

○和謝高橋丈見寄韵（巻之二十六）

○石岑畳翠　○納涼（以上巻之二十七）

○便面小景（巻之二十八）

収められた作品の数は、紹述先生文集第一冊所収の目録の篇数よりも増減があり、七言律詩に於ては五首多く、五言絶句に於ては一二首多く、七言絶句に於ては六首少ない。

一　内容の構成とその特色

第一冊は巻之一・巻之二で、巻之一には贈序二〇篇、巻之二には贈序二九篇、計四九篇を収める。（以下「を収める」

を省略）

第二冊は巻之三・巻之四で、巻之三には序三二篇、巻之四には序三四篇、計六六篇。

第三冊は巻之五・巻之六で、巻之五には記二五篇、巻之六には記二四篇、計四九篇。

第四冊は巻之七・巻之八で、巻之七には論二七篇、巻之八には辨一〇篇と解九篇。

第五冊は巻之九・巻之十で、巻之九には説三九篇、巻之十には説三六篇、計説七五篇。

第六冊は巻之十一・巻之十二で、巻之十一には書五一篇、巻之十二には引五篇、贈言九篇、銘四三篇、榜聯一篇、箴三篇、賛四三篇、題画一〇篇。

第七冊は巻之十三・巻之十四で、巻之十三には墓碑銘三六篇、巻之十四には墓誌銘一九篇、墓表三篇、碑陰三篇。

第八冊は巻之十五・巻之十六で、巻之十五には題跋六二篇、巻之十六には同じく五四篇、計一一六篇

第九冊は巻之十七・巻之十八で、巻之十七には策問三四篇、策対四篇、巻之十八には講義二篇、制義四六篇。

第十冊は巻之十九・巻之二十で、巻之十九には伝四篇、志四篇、原二篇、考・議・疏各一篇、上梁文四篇、頌・歌各一篇、読五篇、筆記二篇、劄記五篇、筆喩・筆記・雑録各一篇、巻之二十には雑著二三篇。

文章の量が二〇巻に上り、文章の種類が四〇類に及び、文章の合計が七七〇篇であること自体が、東涯の作文能力が並々でない事を雄弁に物語っている。文例の多い方が著者の文章の特色を示していると思うので、文例の多い方から順に示しておく。

一位　題跋一一六篇　　二位　序一一五篇　　三位　説七五篇

四位　墓碑銘・墓誌銘・墓表・碑陰の合計六一篇　　五位　書五一篇

六位　記四九篇　　七位　制義四六篇　　八位　銘四三篇、賛四三篇

また上梁文を四篇も作品集に収めているが、個人の別集としては稀有の方である。紹述先生詩集については、表示する方が一目瞭然分かり易いと思う。

冊	紹述先生文集巻数	紹述先生詩集巻数	所収の詩体と詩篇の数
第一冊	二十一	一	五言古詩　四六首
			七言古詩　二八首
	二十二	二	五言律詩　一七三首
第二冊	二十三	三	同　一六六首
	二十四	四	七言律詩　一六一首
第三冊	二十五	五	同　一五一首
	二十六	六	同　一三八首
第四冊	二十七	七	五言絶句　一一六首
			(注)六言詩三首を附載
			七言絶句　一四九首
	二十八	八	七言絶句　二五一首
第五冊	二十九	九	同　一五六首
	三十	十	同　一四七首

二　編纂の目的意図

藤原常雅撰の「紹述先生伊藤君碣銘」に明示されているので、書下して示す。

我ヲ生メル者ハ父母、而シテ我ヲ育テシ者ハ皆亡兄ナリ。今鴻文ヲ獲テ、其ノ言ト行トヲシテ朽チザラ使メバ、我ガ亡兄ニ報ユルモ亦稍〻足レリ

伊藤蘭嵎が亡兄東涯の文集を編纂した目的意図は、明らかに亡兄への報恩のためであった。

三　著者　伊藤東涯

原　善胤（字公道、号念斎）著先哲叢談巻之四によると、名は長胤、字は原蔵、東涯と号し、又慥慥斎と号し、紹述と私謚す。仁斎の長子、平安の人と（本文省略）。寛文十年（一六七〇）生～元文二年（一七三六）歿、六十七歳。終身仕えず、古義堂に於て家学に終始した。哲学の分野に於けるすぐれた論文が多く、詩文に関する意見は少ない。東涯は経学を主とし、詞藻に流れることを斥け、実学を期している。孔子を絶対に尊んだ彼が、詩の効用については、孔子の有名な論語の語（子曰、誦詩三百、云々）について、今日に在ってはそれほどの利益があるようには見えないとし、又宋儒の勧善懲悪の説には反対している。（拙著「江戸時代の詩風詩論、中編第二章第四節其二伊藤東涯より抜萃）

東涯の伝記については、有名人であるから省略し、伝記に関する資料の二、三を列挙する。

○藤原常雅撰　紹述先生伊藤君碣銘（紹述先生文集巻頭）

○江村北海　日本詩史　巻之三　伊藤東涯

○原　念斎　先哲叢談　巻之四　伊藤長胤

○五弓雪窓　事実文編第二　三十二　紹述先生伊藤君墓碣

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

○井上哲次郎　日本古学派の哲学　第二編第三章　伊藤東涯
○吉川吉次郎　仁斎・徂徠・宣長　仁斎東涯学案の内　伊藤東涯

四　書誌事項

使用底本　慶応義塾大学斯道文庫浜野文庫本　三〇巻大一五冊（文集一〇巻一〇冊、詩集一〇巻五冊）　紺表紙で、題簽は四周双辺「紹述先生文集　一」（第一冊）、「紹述先生詩集　一」（第一一冊）。三回に分けて刊行された。第一回は文集巻之一―十（五冊）で、奥附は第五冊末に「宝暦八年戊寅春三月刊至此」と中央に一行で入り、下に「古義堂蔵板」印が捺されている。次は文集巻之十一―二十（五冊）で、第一〇冊末に「宝暦九年己卯秋八月刊至此」、その下に古義堂印があり、裏葉に「平安　書林文泉堂　林権兵衛　発行」の奥附があり、更に「寺町通二条下ル町／花洛書舗　林権兵衛」なる奥附（以下追加奥附と略称）一葉が付されている。最後は詩集巻之一―十（五冊）で、第一五冊末に「宝暦辛己（ママ）（一一年）之秋七月全刊／平安　文泉堂発行」とあり、古義堂印が捺され、その上部にこの印無きものは偽刻である旨の一文が刻されている。48％縮小。

諸本

一、国会図書館本　三〇巻一五冊　黒表紙で題簽は使用底本とほぼ同じ。奥附は、第五冊末、第一五冊末は同じであるが、第一〇冊末の「追加奥附」はない。また「宝暦十一年子善韶跋」が使用底本は第一五冊末にあるのに対して本書は第一〇冊末に付されている。

二、国会図書館鶚軒文庫本　三〇巻二〇冊（文集一〇冊、詩集一〇冊）　紺表紙本で文集の方がやや小さい。使用底本と異なる所は、第一〇冊（文集巻二〇）末の「追加奥附」が「西堀川通六角下ル町／京都書林　中川藤四郎」に変っている。

三、内閣文庫本　三〇巻一五冊　本書も使用底本とほぼ同じであるが、第一〇冊末の「追加奥附」はない。

四、静嘉堂文庫本　三〇巻一五冊　紺表紙で、本の大きさは他本よりわずかに大きい。第一〇冊（巻二〇）末の版元奥附「平安　書林文泉堂　林権兵衛　発行」の右側に小さく「間之町御池上町」と所在地名が刻されている。「追加奥附」はない。

五、筑波大学図書館本　三〇巻一五冊　内閣文庫本とほぼ同一。

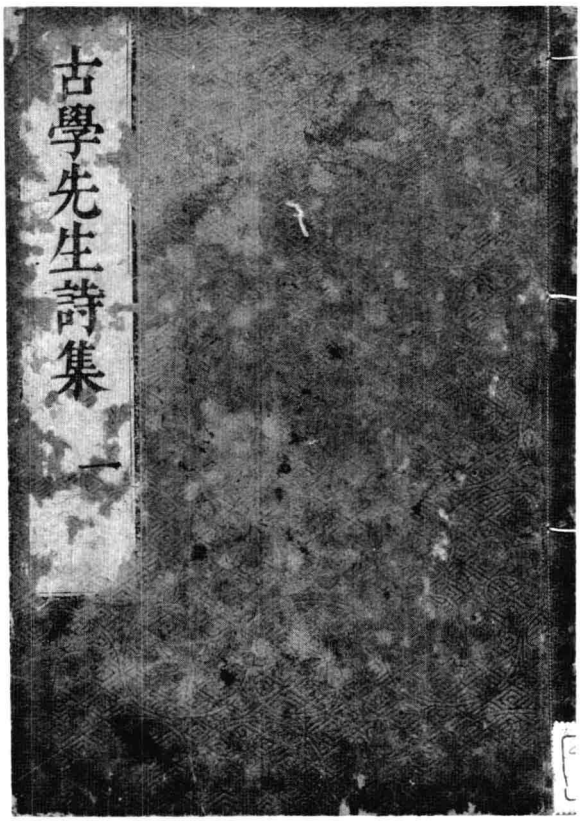
六、国学院大学図書館本　二〇巻一九冊（文集のみ、巻二欠）内閣文庫本とほぼ同一であるが、巻二〇末の版元奥附葉右端に「詩集十巻嗣出」の一行がある。

以上諸本を比較すると、文集は国会図書館本がやや刷りがよく、詩集は国会図書館鶚軒文庫本がもっともよく、静嘉堂文庫本は文集がもっともよく詩集は鶚軒文庫本に次いでいる。そして巻二〇（第一〇冊）末の「追加奥附」のある版は後印と見られる。国書総目録によれば、刊年の異なる版はないようであるが、古義堂印の奥附裏に版元奥附を付して重印していったものと思われる。

目次

解題……松下　忠　3
本文（影印）
古学先生詩集……1
紹述先生文集……43
紹述先生文集……45
紹述先生詩集……403

古学先生詩集



古學先生詩集序

詩之為道天動神解出於情流布由人造故不以格律於裁為貴惟求直吐胸臆實寫景象婦人小子皆

曉所謂者然後為詩蓋景物時新人情隨變景情遭遇胸懷動發而清篇奇句筆下競出是乃詩之古者也末世風頹餖飣攢簇剽

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com